

○3番（三林 浩君） 本日、3人目となります議席番号3番の三林です。

私が行う今回の一般質問は、非常にナイーブでデリケートな質問であります。誤解を招いてはいけないので、私の考えを先に言っておきます。

先生たちはプロの集団ですので、答え、結論ありきの形式的な進め方じゃなく、プロセスを重要とした話し合いの場を作ってほしいんです。また先生、管理者が中心になって、いろんな問題に向き合うべきだと私は思っております。

それでは私の一般質問に入ります。

1つ目は学校教育現場のあり方について、2つ目が東員町スポーツ協会の推進向上についての2項目です。

まず1つ目の学校教育現場のあり方についてであります。1、全国的に先生の労働時間が問題視されていますが、本町について、町長と教育長は現状をどう把握し、対策をどう考えていますか。

2、先生の仕事の中にクラブと言うか、部活指導及び大会への引率がありますが、現状をどう把握し、問題点をどう解決しようと考えていますか。

以上、答弁よろしく願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 学校教育現場のあり方ということで、私の方からご答弁をさせていただきます。

議員からご質問をいただいておりますように、最近の報道でも教職員の労働時間、いわゆる過重労働が大きな問題として取り上げられております。

本町では、教職員の健康保持・増進を図るため、1カ月100時間超または直近の5カ月平均で80時間超の過重労働となった教職員を対象として、産業医による面接を実施しております。この面接では、昨年4月、5月の対象となった教職員から聞き取った時間外勤務の3カ月平均時間を集計したところ、「授業準備」、「休日の部活動」、「生徒指導」の理由の順で多いという結果になりました。

小学校・中学校の別、担当される教科や部活動等の勤務環境の違いから、時間外勤務の理由は様々であります。何が原因かと判断するのは、一概には難しいと思います。

しかしながら過重労働となり、面接が必要と診断された対象者については、産業医との面談において、個々の勤務状況を聞き取り、働き方・生活習慣の改善を提案し、心身の安定を図られるよう指導をしております。

また、私も含め、産業医、校長・養護教諭並びに教職員の代表、町職員等、計10名の委員で構成された総括安全衛生委員会を設置し、教職員の健康の確保と快適な職場環境の整備について、協議を行っております。

なお、現在は、週1回は定時退校を目指し、小学校は18時までに、中学校は19時までに勤務を終了するという取り組みを行っております。また、中学校の部活については原則、平日で1回、週休日で1回は休みを設定するようになっております。

今後も過重労働対象者につきましては、一人ひとりの実情に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、時間外の縮減が図られるよう、教育委員会・学校が共同で取り組んでまいります。

次に、中学校教師の部活動指導及び大会への引率の現状と問題点についてであります。現在、本町では顧問、副顧問、合わせて二人で一つの部を受け持つようにしております。これは、教職員の部活動指導の軽減、教材研究の時間や個別の指導時間の確保、そして部活動中の安全確保に繋がっております。残念ながら、生徒数の減少も伴って教職員数も減るため、顧問二人体制をとっている両中学校では、ここ数年の間で部活数が少しずつ減り、生徒たちに残念な思いをさせております。

大会や練習試合への引率につきましては、貸し切りバス、電車などの公共交通機関や自転車を利用しております。バスや電車の場合、基本的には顧問は同乗をしますが、乗車駅、途中駅、降車駅で合流することもあります。自転車の場合は、危険箇所や交差点への先回りを行い、安全に通行できるよう誘導をしております。

なお、一部ではございますが、公共交通機関では不便な会場での試合や、早朝からの集合等の場合は、各生徒の保護者に送迎をお願いする場合もございます。

これら大会や遠征時の生徒の送迎については、どの部においても、事前に大会の参加引率計画を学校長へ提出し、承認を得るようになってます。

まもなく県が「適切な部活動の運営を目指した指導のあり方などを示す」ガイドラインを策定することになっております。それを受けて、本町におきましても、来年度には部活動の指針の作成を行う予定でございます。

今後も部活動がスポーツや文化等に親しませ、学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものになるよう心がけてまいりたいと思います。

また、地域の方たちの協力、社会教育施設や社会教育関係団体との連携など、運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制を整えていきたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 先ほどの答弁の中に、中学校の部活動なんです、1つの部活に対して先生が2名体制というふうに、たしか答弁があったと思います。そこでお伺いします。本町の第一中学校、第二中学校の部活はそれぞれいくつありますか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

第一中学校の方ですけれども、男女別をそれぞれ1とした場合に、全部で10の部活があります。それから第二中学校は部活の数は8です。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 東員町は先生と部活の割合が2対1というふうにお聞きしており

ますけれども、近隣の市町についてはどうなのでしょう。決まりがあるものなのでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

近隣の市町ですけれども、基本的には複数体制を維持したい、維持していこうというのが基本ですけれども、残念ながらと言うか、それぞれの学校の体制によりまして、1名のところもいくつかあります。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） そうしますと、近隣に比べて本町は、先生の長時間労働の軽減に対して非常に前向きに進んでいるという理解を私はしたんですが、その中で2年前ですかね、私が一般質問の中で部外者指導、長時間の要因の1つとして部活動があるということをおっしゃっていたので、部外者指導を取り入れていきたいというようなことをおっしゃっていたんですが、現状どうなっているのでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

その年によりますけど、今年度の場合ですけれども、一中の場合には10の部活で2つの部の外部指導をお願いしております。それから第二中学校では、3つの部が外部指導者にお世話になっております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） そうしますと、現状が2名、3名ということなんですね。外部指導が2名、3名になっても、なおかつ部活動が長時間労働の要因になっているという理解でよろしいのでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 部活動というのが、放課後ある時間帯を行いますので、その時間帯に部活動をする。その後、先生たちは授業の準備とか、それからいろんなことを、会議とかをやる場合がありますので、長時間の部分での、中学校においては影響があるのではないかなと思っております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 三重県の中でも部活動に関して、長時間労働の要因の1つと上げておりまして、対策として2018年度、今年4月からだと思いますが、先生の負担を減らすために、部活動ではないんですけども、いわゆる部活動以外の今言った事務ですね、事務関係、生徒指導の仕事も要因の一つに上げられていましたので、それを肩代わりする制度を取り入れていきたいというふうに三重県の方からも言われております。それに対して東員町はどういうお考えでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 2つあると思うんですけども、1つは部活動に対しては、三重県も外部指導者をお願いするというような形を進めようとしております。国の方も進めようとしておまして、そのための予算も若干出していただいておりますけれども、今後増えてくるのではないかなと思っております。

もう1つは、先ほどの事務のあれというのは、例えばテストのプリントを刷ったりとかというような方向やと思うんですけども、今年、津市がそういうような退職をした方を活用しながらというような、私どもも本当にいろんなところで何と言うか、お金があれば本当に使いたいものがありますけれども、多分それは無償ボランティアの中ではないと思いますので、東員町では難しいかなと。今、東員町でやっているのは、保護者の方や、いろんな方に無償ボランティアをお願いしているというところがあります。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 冒頭でも私が述べさせていただいたとおり、先生たちはプロの集団ですので、結論について、ああだこうだということを、私はここでただすつもりはございません。ただ、決まるまでの過程ですかね、先ほどの同僚議員も同じようなことを言ってたんですけども、例えばお金がないからできない。もちろん、お金がないとできないというのは理解できるんですが、そうじゃなくて、やるためにはどうしたらいいのか。そのためにお金がこれだけかかりますということを、管理者なり、上なり、県なり、国なりに話していくのが順序ではないのかな、そういう考え方で進めていけば、先生の長期労働時間というのは、少しでも削減できるのではないかなというふうに私は思っておりますけども、どうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 私も同じようなことを思っておりまして、県の教育長会とか、県の代表になりますと、全国の町村の教育長の理事もさせてもらっておるんですけども、そういう全国の場合で文科省の人が直接来る場合があるんです。そういうときに、いろんな要望をさせていただいております。特に町村の部分には、財政上厳しいところがありますので、そういうところもやっぱりきちんと国は目を配り、そして財政上というような要望等もさせていただいております。ぜひ何ができないんじゃないかと、できるためにというのは、私もそのとおりだなと思っております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） あと、引率の件なんですけども、時間的にだとか、近くに駅がないだとかいうことで、父兄の方をお願いすることもあるということだったんですけども、もちろん私も仕方がないなと思うんですけども、ここで一つ確認をさせていただきたいのは、ただ時間的なことだとかいうことでお願いしますというのか、ある父兄の方から私の方に悩み事がありまして、結局父兄に任せると、父兄の中でそういう話し合いを持つそうなんです。どういう話し合い

を持つかと言いますと、じゃあ順番制にしましょうとか、引率を順番制にしましょうと、そういう話になっていくそうです。以前は先ほど教育長が答弁していただいたように、バスを配車したりという形でやってたんですけども、時代の流れで、それも生徒も少ないし、お金もかかるしということで、年によってだんだん変わってきておるんですけども、なかなか父兄の方は、そういうことが変化に追いついてないように私は感じたんです。

そこで一方的にお願いをするのか、どういう形でいきましょうという形で父兄さんにお問い合わせと言うか、どういうふうな形でかわりを持っているのか、その辺を少しお聞かせ願えますでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

私が把握しているのは、中学校が管理を持っている部活動、ですから中体連の大会とか中学校が管轄し、試合をしなければならないものは、ほとんどバスをチャーターしたりとか、引率をしたりしております。保護者の中で何とかお願いするというのはないと思います。

名前を言っちゃうと、ちょっとあれなんですけれども、あるスポーツの方が部活の中では一つ、何かの遠いところの大会があったので、それをお願いしたというぐらいです。ですから中学校の部活以外では、それは学校の先生がついていとか何かというのは、ちょっと違うのではないかなという感じはしております。部活で私どもが今、把握しているのは全部、多くは学校の先生の管理下の中で、バスとか電車に同乗したりという形はっております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 学校の先生の長時間労働につきましては、私が今聞いている限りでは、東員町としては結構前向きに検討していただいて、実施できる範囲では実施も行っていると。また、部活の数に対して先生は2名体制で行っていると。これも近隣市町よりも進んでみえるというふうに私は理解をしました。

その中で最後になりますが、これも冒頭にも何回も言ってますように、答えありきで物事を進めるのではなくて、何々をするにはどうしたらいいんだと。それをするには何が問題があるんだという皆さんの意見を、特に現場での意見を吸い上げて、それに対して向き合っていく方法が、私はベターじゃないかなと思っております。その辺の回答をもう一度よろしく願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 私の性格上、上からガッと押さえつけるところがあるのかなというので、申しわけなく思っておるんですけども、何かを進めていく場合には、現場の先生の何が一番大事かと言うと、私は意欲やと思います。その現場の先生たちを、どう意欲的にするかというのが私の責任であると思います。その中の一つの方法として、先生方の、現場の方のいろんな意見を聞くというのは、私はとっても大切なことであるなと思っております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） ぜひその意欲を引き出せるように頑張っていたいただきたいと思います。

2つ目の質問に入ります。

東員町スポーツ協会の推進向上についてです。

1、スポーツと言えば心技体が求められますが、教育長は教育とスポーツの関係について、どう考えていますか。

2、東員町スポーツ協会の今後の推進について、どう考えていますか。

以上、答弁よろしくお願ひします。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） それでは三林議員のご質問にお答えをします。

アメリカの国立臨床幼児教育センターでは、就学時に培いたい7つの大切な要素というものを提示しております。それは自信、好奇心、計画性、自制心、仲間意識、意思疎通能力、協調性という能力です。これらの7つの能力は、生後間もない時期から身につけた基礎の上に積み重ねられて育てられるものであり、今後の人生において、うまくいく生活の基盤となるものがあります。

一方では、これらの能力は全てスポーツに親しむ中で育てることができるものでもあります。それほどスポーツの持つ力は、心身の健やかな発達以外にも、人間が育つ上で大きな力があると私は考えております。

スポーツには個人種目と団体種目がありますが、どれもルールの中でお互いが切磋琢磨し、厳しい競争の中で明確な結果が出ます。

特に団体種目では、先ごろ閉幕した平昌オリンピックにおいて、見事金メダルを獲得したスピードスケートのチームパシュートのように、個人の力では劣っていても、個人がまとまれば力を発揮する例もあります。金メダルを取るまでの練習の過程では、チームの仲間と共に悲しみ、苦しみ、喜びを共有し、深い人間関係を作り上げるすばらしさを我々に示してくれました。

また、スピードスケート女子500メートルでの小平選手とイ・サンファ選手の姿は、スポーツが正義・公正・友情というフェアプレーの精神を涵養する貴重な体験の場になることを改めて感じさせてくれました。

目標を決めて練習する中では、日々の継続と反復が大切になってきます。あきれるほど単純な繰り返しの基礎練習は、スポーツにつきものです。

「したくないことを、やらざるを得ない」という機会は、児童・生徒たちのこれからの人生に何度もやってきます。そのとき「したくないけれど、やってみれば後でよかったと思うことが来るかもしれません」、そう考えられることは大切な経験だと思います。

スポーツだけではありませんが、スポーツには人間を育てる、それも楽しみを伴いながらできるすばらしいものであると思います。自分がより向上したいと願えば、細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する能力が求められます。

その過程においては、先ほどの7つの培いたい能力だけではなく、現在非常に注目をされている非認知的能力を鍛えるものとしても考えられます。それは、自制心とやり抜く力です。

また、学校教育分野だけではなく、生涯学習分野でも、スポーツの果たす役割は大きなものがあると思っております。自分の好み、能力、年齢に合わせてスポーツに親しむことは、健康長寿を標榜する東員町としても重要なことであると考えます。

東員町教育委員会では、スポーツの持つ魅力を十分認識し、学校教育における「健やかな体」の育成と社会教育における「生涯スポーツの推進」を二本柱として、具体的な施策を進めております。

今後も学校教育分野では実態を把握しながら、社会教育分野ではニーズを把握しながら施策を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 小川教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） 続きまして私からは2点目の「スポーツ協会の今後の推進について」のご質問にお答え申し上げます。

本町のスポーツ協会は生涯スポーツの振興、体力、競技力の向上を図り、全ての町民が、それぞれの体力や年齢に応じたスポーツ活動を行える環境づくりに資するため、「体育協会、スポーツ少年団、フレンドリークラブ」がスポーツ協会のもとで効率的な運営を図ることなどを目的に、平成24年の4月に設立され、6年余りが経過いたしております。

スポーツ協会に一元化したことによるメリットとしましては、これまでは社会教育課が3つのスポーツ推進団体と個別に協議、伝達、調整をそれぞれ行っておりましたが、一元化されたことで情報の共有や伝達なども非常に早く、スムーズとなりまして、スポーツ協会を中心に有機的な連携が可能となり、効率的な組織運営が図られるようになったことが上げられます。

また、本町のスポーツ振興の中核として位置づけておりますことから、組織強化にも繋がり、町内外に東員町のスポーツ活動や協会の存在を広く示すことができしております。

その他「とういんフレンドリークラブ」のように利用者の増加に伴い、会費収入も増えてきております。

これまでは使用する施設の使用料を減免いたしておりましたが、来年度からは使用料を一部お支払いいただく予定で、今後の自主運営が可能となりつつあることもメリットと考えております。

一方課題といたしましては、スポーツ少年団においては、少子化やスポーツの多様化により、せっかく募集をしていただいても子どもたちが集まらないことや、指導者不足の問題があります。

また、体育協会事業においては町民体育祭、町民駅伝大会、自治会対抗種目などの事業種目の固定化や高齢化などによる選手集めに大変ご苦労され、参加を見送られる自治会も増加傾向にあります。

さらにスポーツ協会を支える役員の方の高齢化なども課題の一つであります。

今後も引き続き体育協会、スポーツ少年団、フレンドリークラブを統括する「スポーツ協会」と連携を密にしながら、必要に応じて事業内容の見直しを図ってまいります。

最後に私どもが設立当初から目標といたしております、行政からはできる限り支援を受けずに「自主・自立」をして、「協会の法人化」を目指していただくことを強く期待を申し上げ、答弁とさせていただきます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 教育長の方から非常に熱い答弁をいただきました。ありがとうございます。

私自身も教育長が述べられたとおり、そのとおりだと思っております。精神的にはそうなんですけども、実際、もう一つ大事なことが、私はあるんじゃないかなと思っております。それは何かと言いますと環境です。スポーツの精神的な話はよくわかるんですが、いざスポーツをやろうと思いますと、スポーツができる環境が、次に重要視されるのではないかなと私は考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） スポーツを進めていく環境というのは大変大事であるなと思っております。

以上です。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 意見は一致しておるという理解で、旬な話題としまして、今、テレビ等でにぎわっております女子レスリングの伊調選手、これが非常に意味深な発言をしておりました。今は次の東京オリンピックに出る環境ではないと。オリンピック4連破をした伊調馨は環境ではないと、非常に環境について強調されているのを、私は強く心に残っております。

じゃあなぜ環境が必要か、環境とはだれがやるのかと言ったら選手、スポーツで言えば生徒ですね。スポーツクラブであれば、スポーツをする子どもたちなんですけど、その子どもたちがのびのびと将来に向けて、教育長がおっしゃっていたようにするには、やっぱり環境というのは必要不可欠ではないのかな。そういうことを重視すれば、やる人たちの今、何を問題、課題として上げているのかということ、環境の現場を見たり、実際やっている方の話を聞いて連携を強めていくのが、私はベターじゃないかなというふうに考えておるのですが、いかがでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

具体的に何を答えていいのか、ちょっとわからないところがあるんですけども、先ほども言いましたように、例えば学校教育関係であれば学校教育課長がおりますから、学校教育のことを、そういうことで私の方に上げてもらいます。社会教育、教育総務関係なら私の方に上げてもらいます。いろんなところでご意見があれば、教育委員会でも意見を聞いたりしておりますので、そういうところでご意見を聞きながら、私とか東員町教育委員会が進めていく政策を決



めていきたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 議長に許可を得て写真を出させていただきますので、よろしくお願ひします。

この写真なんですが（三林議員 写真を示す）これは神田スポーツ少年団が毎週練習に使用している神田小学校の風景です。矢印の方にレフト・ライトと書いてあるんですけども、これをちょっと残していただきまして、レフト側なんですけども、レフト側の方には、非常に立派なボールが飛び越えていかないための網が設置されております。非常に立派です。片やライト側なんですけども、ライト側の方は、設置した時期も違うということもあるんでしょうけども、簡易的な網で保護されております。

ここで何が言いたいかと言うと、さっき教育長が具体的にというお話でしたので、この件について、スポーツ少年団の現場からは、何とかネットをレフト側のようにしっかりしたものにしてもらえないかという話があるんです。

ちょっと見にくいですから、これをもうちょっとアップにするんですけども、これが簡易的な網の方ですね（三林議員 写真を示す）ちょっとこれも見にくいんですけども、もうちょっとアップにしますと（三林議員 写真を示す）高さはもちろん低いですし、下の方はどうなっているかと言いますと、ボールが転がって外まで出てしまうと、こういう状態が続いてます。その都度、私が確認している中では、抜けていく下側につきましては、自分たちで補給的に直しているそうなんですけども、やはり時期が来ますと、なぜかわからないですが、穴が空いてしまうと、そういう状況です。

これが、ただそれだけで済んでいればいいんですけども、今の子どもたちというのは体もでかいし、力も体力もあります。今まではそこまでネットを越えなかったから、ライト側の方はそれだけの高さでよかったんだと思いますね。だけども現在はどうかと言いますと、ネットを越えるそうです。ネットを越えるということはどういうことかと言うと、民家にボールが行くと。これがしょっちゅうじゃないと思います。ただ、回数の問題ではなくて、1回でもそういうことになってしまったときに、やっぱりやっている側としては民家の方に大変申しわけないと。もちろん民家からも、クレームではないんですけども、ボールが飛んできたぞと言われるたびに、精神面の方で、やる側は非常にネガティブになってしまう。

となると、先ほどから教育長が熱い答弁をしていただいた、将来子どもたちに向けての意味と、ちょっとやっていることが違うんじゃないのかなと私は感じてるんです。網を高くすれば済むという話じゃないんです。私が強調したいのは、せっかく東員町スポーツ協会という一元化にして、連携が今までよりもよくなったということであれば、そういうことも社会教育課が見ていただいて指導をしていくと、そういう意見を吸い上げると。実施するのは、また別問題です。そういう仕組みを築いていくのが、本来の管理者としての仕事の一つじゃないかなと私は思っているんです。

それについていかがでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 小川事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） お答えさせていただきます。

スポーツ少年団さんからの、その利用団体からの直接要望と言うか、改修の要望はいただいておらずに、先ほど言われたように、学校長を通じて、教育委員会の方に少し前にいただいております。被害にあわれた民家の方からは、クレームというのはいただいております。

ただ、そういうスポーツ少年団の方が利用されてみえて、そういうような問題と言うか、事例があるということであれば、基本的には先ほどもお話をさせていただいたように、各地域のスポーツ少年団が、スポーツ少年団には本部というのがありますので、そちらの方に上げていただいて、それをスポーツ協会がまとめておりますので、いろんな意見があると思いますので、基本的にはそちらへ上げていただいて、スポーツ協会の年に4回程度、協議の場と言うか、役員会議がありますので、そういうところを通じて、私どもの社会教育課の担当なり課長も、その場に参加させていただいておりますので、いろんなその場で要望なんかをいただくというような、今は形をとらせていただいております。

よろしいでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 末端は多分そういうことを知っててやってないのか、知らずにやっているのかは別にしまして、よく耳にするのが、一番上まで上がっていくまでに、予算がないからということで口を閉ざしてしまう。言いたいんだけど、その前に予算がないから無理ですとか、そういうふうで、歯止めと言ったらおかしいですけども、言えない環境になってしまう。私はそこが問題じゃないのかな。それを言える環境づくり。だからさっきから言いましたように、実施するかしないかは別です。でもまず問題が上がる環境づくりを、私は望みたいと思っております。その辺はいかがでしょう。

○議長（島田 正彦君） 小川事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） 先ほどご指摘いただいたように、当然我々も意見は意見として受け止めさせていただきたいと思っております。ただ、根底と言うか、そこには予算とか、優先順位とか、学校の利用形態、いろんなことがありますので、その中で順位をつけながら、実施するしないは、また一度、そういう団体の方ともお話をする機会の場合というのが、教育委員会でも、いつでもそれは持たせていただくことは可能ですので、また一遍、代表者の方ともお話をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 非常に前向きな意見を言っていただき、ありがとうございます。時間もぼちぼち後半に入っておりますので、教育長も非常に熱い答弁をしていただきました。やはり東員町にとっては、教育、スポーツ、これは切っても切れない関係だと私も考えております。

そこで町長にお伺いしたいと思います。町長の前々からの政策である駅前開発ですね、これに絡んで、もし第一中学校が移転した場合、陸上競技場ですね、この辺も非常に近くなりますし、町長、昨年10月に公認というのは東員町は解かれました。解かれましたが、やはり東員町に現在、陸上競技場があるぞということを、逆に私は駅前開発を進めるに当たってチャンスだと思います。このチャンスをぜひ、公認を外したから、管理費用がかかるから、費用がかかるのは、さんざん町長の方から本町だけでは管理は難しいですと、これは理解できます。

非常に私は町長をすごいなと思ったのは、今までは無理と言っていたんですけども、無理な中でも、残すためにはどうしたらいいんだという考えのもとで、いろんなところで今、声をかけていただいているというふうに聞いております。これをぜひ今後もチャンスと変えて続けていっていただきたいと私は思っているんですが、町長はどうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 陸上競技場につきましては、昨年10月に公認を外れました。ただ、桑員陸協から1年間の延期というお願いが出てきて、今、1年間延期をするようにお願いをしております。したがって今年10月まで、一応時間的な余裕はできました。

その中で我々がやっていることは、今、議員がお話をいただいたように、今まで25年間、東員町だけで桑員地区全体の競技に資する施策を、ずっとやってきたわけですね。これは東員町の町民の皆さんの血税でやってきました。

これは東員町だけではないんですが、全体的に財政状況が厳しくなる中で、この25年間やってきたことを東員町だけでもう一回続けられるかと言うと、なかなか難しいということで、具体的には、今、2市2町で組織してます広域連合の方へ、陸上競技場が広域連合の中で、2市2町で、これから施設改修も含めて、公認としてやっていけるかどうかということですね、そういうものを広域連合の方へ上げました。上げて、今現在協議をさせていただいております、担当者レベルで。

これから首長会議の中で、そういう話が結論づけられるんだろうというふうに思いますが、この2市2町の入ったみんな、じゃあこの陸上競技場を公認としてやっていこうということを書いていただければ、全体ですね、書いていただければ、東員町としても応分の負担をして、桑員地区のスポーツに資する、そんなことをやっていきたいというふうには思っていますが、まだ広域連合へ上げたばかりで、担当者会議も始まったばかりですので、今のところ、どういうふうになるかという見通しは立っておりません。立っておりませんが、もしそういうことであるならば、桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町の議員の皆さんも、当然広域連合議会の中に入っているわけですから、その中で、議会の中で議論をしていただくような、そんなことでもなればいいのかというふうに思っております。

何度も申し上げますが、東員町だけではもうどうにもなりませんので、ぜひみんな、この陸上競技場をどうするかというのを考えていただきたいというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 三林議員。

○3番（三林 浩君） 広域連合会ですかね、その中で検討していただくということなん

ですが、それも何度も繰り返すようですが、答えありきで進めるんじゃなくて、続けるにはどうしたらいいかということ、これは町長だけの問題じゃなくて、私たち議員にも関係することだと思ってるんです、まちづくりの一つの大きな問題としまして。その中での話ですので、ぜひ途中経過だとかいうことを共有化させていただきたいなと強く要望しまして、私の一般質問を終わりにしたいと思います。